

第1回 建設候補地周辺土地所有者説明会 (新最終処分場)

日時 令和3年2月6日(土)
午前9時30分～午前11時
会場 千厩市民センター

次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 説 明
 - (1) 建設候補地の絞込みの経緯について
 - (2) 施設の概要について
 - (3) 今後の予定について
- 4 質疑応答
- 5 閉 会

一般廃棄物最終処分場について

建設候補地の位置図

国土地理院の電子地図（タイル）に建設候補地の位置を追記して掲載



※ 範囲は確定したものではありません。具体的な施設の配置計画はこれから検討していきます。

1 候補地絞り込みの経緯

委員会名	内容	② 広域行政組合
① 整備候補地 選定委員会	<ul style="list-style-type: none"> 管内全域から、3段階（第1次選定から第3次選定）で、51の条件を設定して、4か所の候補地を選定 委員は、廃棄物処理工学、環境影響評価、地盤工学、動物生態学、植物生態学などの専門家7名で構成 平成30年3月から1年7か月、計9回の会議を開催 	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年10月に候補地選定委員会から4か所の候補地を選定した旨の報告を受けた。 報告の4か所を最終選考候補地とした。
③ 施設整備 検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> 専門家の助言をいただきながら、4か所の候補地を26の評価項目で評価して、1か所に建設候補地を絞り込んだ。 委員は、一関市、平泉町、広域行政組合の職員11名で構成 令和元年9月から現在まで、14回の会議を開催（継続中） 	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年12月から住民説明会を開催（42会場、延べ858人参加） 令和2年11月、建設候補地を1か所に絞り込んだ。

(1) 整備候補地選定委員会での選定

区分	内容	絞り込み
第1次選定	法的規制や災害の影響など不適切と考えられる地域を除外 (管内面積：1,319.81 km ²) 条件：25項目	268.17 km ²
第2次選定	アクセス性やインフラ整備の優位性、人口分布などの諸条件により、候補地を絞り込み 条件：18項目	19か所
第3次選定	技術、環境、経済面などを総合的に評価して候補地を選定 条件：8項目	4か所

絞り込み条件一覧 51項目

自然公園地域	地すべり防止区域	文化財等	公共施設(市町村)	土地取得の容易性
自然環境保全地域	地すべり危険地区	埋蔵文化財包蔵地	道路状況	人口重心からの距離
環境緑地保全地域	山腹崩壊危険地区	重要文化的景観	インフラ整備の状況	隣接自治体からの距離
鳥獣保護区特別保護地区	なだれ危険地区	巨樹・巨木林	評価対象地人口	技術面の評価
国有林	崩壊土砂流出危険地区	景観地区・準景観地区	敷地面積	土地利用面の評価
保安林	土石流危険渓流	人口分布	道路状況	経済面の評価
河川保全区域	地すべり地形分布区	土地造成の容易性	取付道路の有無	土地権利面の評価
緑の回廊	浸水想定区域	構造物等の有無	土地の利用状況	その他考慮すべき事項
砂防指定地	都市計画区域	学校病院からの距離	構造物等の有無	自然環境面の評価
急傾斜地崩壊危険区域	農業振興地域	公共施設(国・県)	土地造成の容易性	生活環境面の評価
				総合的評価

(2) 施設整備検討委員会での絞り込み

① 絞り込み方法

施設整備基本方針の区分ごとに評価項目を設定して比較評価

- ㊦ 数値化できる項目 → 数値に基づき **定量評価**
- ㊧ 数値化できない項目 → 利点と課題を整理して **定性評価**
- ㊦と㊧の **総合評価** により候補地を絞り込み

評価項目一覧 26項目

① 安定性に優れた安全な施設	受電環境 給水環境 配水管までの距離 亜炭採掘鉱区 湧水・表流水 土質
② 環境に配慮した施設	交通安全 排水環境 景観との調和 自然環境への影響 生活環境への影響 周辺農地への影響
③ 災害に強い施設	想定される自然災害の種類 施設建設の阻害要因
④ 経済性に優れた施設	造成費 施設建設費 取付道路整備費 用地取得費 運転管理費 運搬費
⑤ その他	総合計画・土地利用計画との整合性 協働による地域づくり 利用者の利便性 想定地権者数 想定筆数 工事環境

② 評価結果

新最終処分場の建設候補地は、「千厩字北ノ沢ほか」が最適であると評価

2 施設の概要

(1) 施設整備基本方針

- ① 安定性に優れた安全な施設
- ② 環境に配慮した施設
- ③ 災害に強い施設
- ④ 経済性に優れた施設

(2) 施設形式（案）

国内で導入実績がある次の2つの施設形式の利点と課題を整理し、総合的に評価

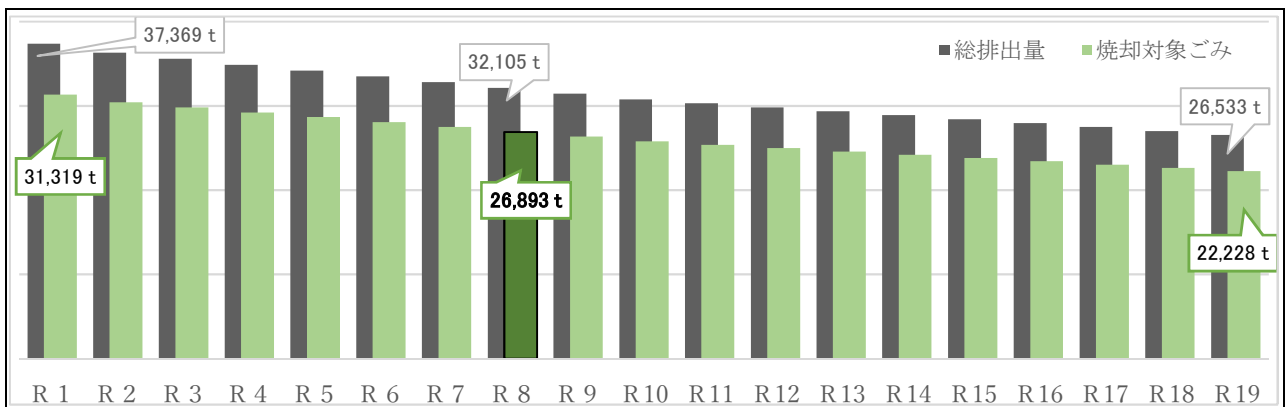


評価の結果、新最終処分場の施設形式は、「オープン型」が最適であると評価

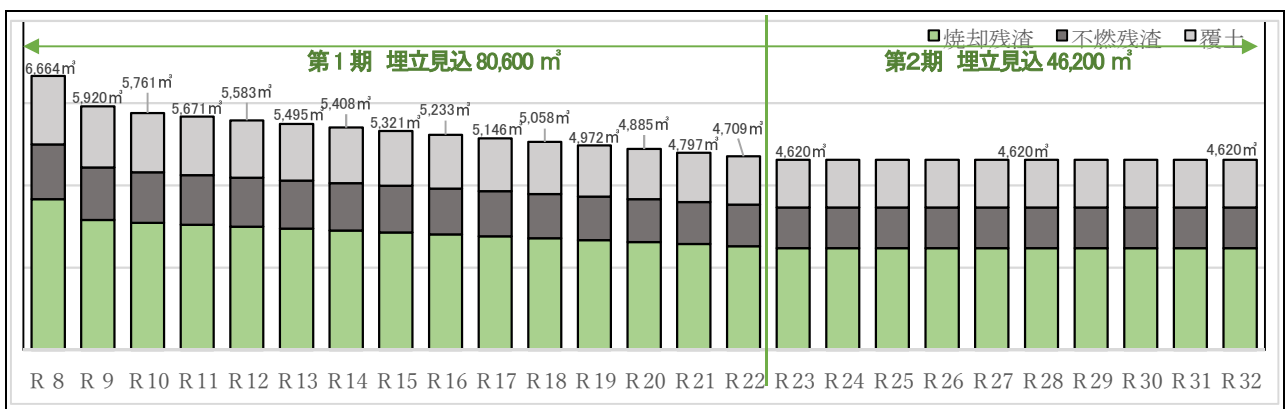
(3) 施設規模（案）

施設規模（案）は、ごみ排出総量と焼却対象ごみなどの将来推計から埋立て見込量を算出して設定

① ごみの総排出量・焼却対象ごみの将来推計

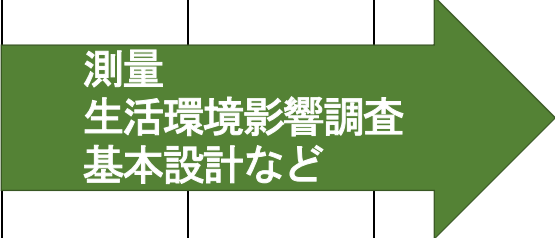
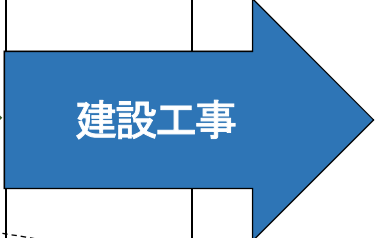









② 施設規模



第 1 期（15年間の埋立容量の見込み）： 80,600m³
 第 2 期（10年間の埋立容量の見込み）： 46,200m³
施設規模（合計）： 126,800m³

3 今後の予定

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業内容						令和8年度中 稼働開始

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">土地の起伏や形状を測定し、地形図を作成します。</div>		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">基礎構造物などの検討に必要な土地の土質や地質、基礎地盤、地下水などの状態を調査します。</div>		
			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">事業範囲を決めます。 取得させていただく土地と隣接する土地との境界の確認をお願いします。</div>			
			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">現況調査～予測評価の順に進められます。</div>			
			

第1回 建設候補地周辺土地所有者説明会 (エネルギー回収型一般廃棄物処理施設)

日時 令和3年2月6日(土)
午後1時30分～午後3時
会場 弥栄市民センター平沢分館

次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 説 明
 - (1) 建設候補地の絞込みの経緯について
 - (2) 施設の概要について
 - (3) 今後の予定について
- 4 質疑応答
- 5 閉 会

エネルギー回収型一般廃棄物処理施設について

建設候補地の位置図

国土地理院の電子地図（タイル）に建設候補地の位置を追記して掲載



※ 範囲は確定したものではありません。具体的な施設の配置計画はこれから検討していきます。

1 候補地絞り込みの経緯

委員会名	内容	② 広域行政組合
① 整備候補地 選定委員会	<ul style="list-style-type: none"> 管内全域から、3段階（第1次選定から第3次選定）で、49の条件を設定して、4か所の候補地を選定 委員は、廃棄物処理工学、環境影響評価、地盤工学、動物生態学、植物生態学などの専門家7名で構成 平成30年9月から1年2か月、計8回の会議を開催 	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年10月に候補地選定委員会から4か所の候補地を選定した旨の報告を受けた 報告の4か所を最終選考候補地とした。
③ 施設整備 検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> 専門家の助言をいただきながら、4か所の候補地を27の評価項目で評価して、1か所に建設候補地を絞り込んだ。 委員は、一関市、平泉町、広域行政組合の職員11名で構成 令和元年9月から現在まで、14回の会議を開催（継続中） 	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年12月から住民説明会を開催（42会場、延べ858人参加） 令和2年11月、建設候補地を1か所に絞り込んだ。

(1) 整備候補地選定委員会での選定

区 分	内 容	絞込み
第1次選定	法的規制や災害の影響など不適切と考えられる地域を除外 (管内面積：1,319.81 km ²) 条件：24項目	754.27 km ²
第2次選定	アクセス性やインフラ整備の優位性、人口分布などの諸条件により、候補地を絞込み 条件：17項目	19か所
第3次選定	技術、環境、経済面などを総合的に評価して候補地を選定 条件：8項目	4か所

絞込み条件一覧 49項目

自然公園地域	地すべり防止区域	埋蔵文化財包蔵地	農振整備計画との整合性	運搬経費の経済性
自然環境保全地域	地すべり危険地区	重要文化的景観	評価対象地人口	技術面の評価
環境緑地保全地域	山腹崩壊危険地区	巨樹・巨木林	敷地面積	土地利用面の評価
鳥獣保護区特別保護地区	なだれ危険地区	景観地区・準景観地区	道路状況	経済面の評価
国有林	崩壊土砂流出危険地区	人口分布	取付道の有無	土地権利面の評価
保安林	土石流危険溪流	土地造成の容易性	土地の利用状況	その他考慮すべき事項
河川区域	地すべり地形分布区	構造物等の有無	インフラ整備の状況	自然環境面の評価
緑の回廊	浸水想定区域	公共投資エリアの回避	構造物等の有無	生活環境面の評価
砂防指定地	都市計画区域	隣接自治体からの距離	土地造成の容易性	総合的評価
急傾斜地崩壊危険区域	文化財等	運搬経費の経済性	土地取得の容易性	

(2) 施設整備検討委員会での絞込み

① 絞込み方法

施設整備基本方針の区分ごとに評価項目を設定して比較評価

- ⑦ 数値化できる項目 → 数値に基づき **定量評価**
- ① 数値化できない項目 → 利点と課題を整理して **定性評価**
- ⑦と①の **総合評価**により候補地を絞込み

評価項目一覧 27項目

① 安定性に優れた安全な施設	受電環境 給水環境 配水管までの距離 亜炭採掘鉱区 配慮を要する構造物 土質
② 環境に配慮した施設	交通量 交差点位置 取付道路 景観との調和 自然環境への影響 生活環境への影響
③ 廃棄物を資源として活用できる施設	資源の活用先との距離
④ 災害に強い施設	想定される自然災害の種類 施設建設の阻害要因
⑤ 経済性に優れた施設	造成費 施設建設費 取付道路整備費 用地取得費 運転管理費 収集運搬費
⑥ その他	総合計画・土地利用計画との整合性 協働による地域づくり 利用者の利便性 想定地権者数 想定筆数 文化財

③ 評価結果

新処理施設の建設候補地は、「**弥栄字一ノ沢ほか**」が最適であると評価

2 施設の概要

(1) 施設整備基本方針

- ① 安定性に優れた安全な施設
- ② 環境に配慮した施設
- ③ 廃棄物を資源として活用できる施設
- ④ 災害に強い施設
- ⑤ 経済性に優れた施設

(2) 処理方式（案）

国内で導入実績がある次の8つの処理方式の利点と課題を整理し、総合的に評価

焼却・溶融方式	焼却	焼却+灰溶融	ガス化溶融		
非焼却方式	炭化	ごみ燃料化	トンネルコンポスト	高速堆肥化	バイオガス化

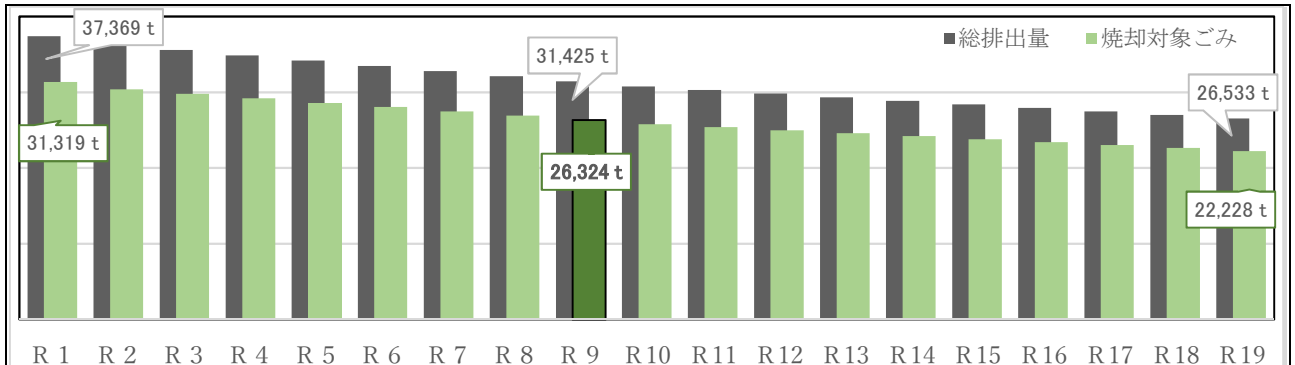
評価の結果、新処理施設の処理方式は、「**焼却方式**」が最適であると評価

これに加え、堆肥化など、資源化率の高い処理方式を付加的に導入できないか引き続き検討

(3) 施設規模（案）

施設規模（案）は、ごみ排出総量と焼却対象ごみの将来推計から算出して設定

① ごみの総排出量・焼却対象ごみの将来推計



② 施設規模

1日当たりの平均処理量 (26,324t/年 ÷ 365日) ÷	実稼働率 0.767 ÷	調整稼働率 0.96 ×	災害対応加算 1.076 ÷	施設規模 106t/日
-------------------------------------	-----------------	-----------------	-------------------	-----------------------

(4) 回収エネルギー量の見込み

ごみの焼却によって発生する熱から回収できるエネルギーの種類と量の見込み

① 電気

発電出力 **1,633kW** うち、他の用途に利用可能な電力 **1,025kW**

1,025kWの電力は、1か月当たりでは738,000kWh/月となります。

仮に1世帯当たりの電気使用量を260kWh/月とすると、計算上は約2,800世帯分の電力となります。

② 熱量 (50°C程度の温水)

回収総量 **23.2GJ/h** うち、他の用途に利用可能な熱量 **8.7GJ/h**

8.7GJ/hの熱量は、例えば融雪に利用する場合、計算上は面積で6,690㎡(幅員8mの道路にして836m)の熱量となります。

3 今後の予定

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
事業内容	測量 環境影響評価 基本設計など			建設工事			令和9年度中 稼働開始

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
地形測量	土地の起伏や形状を測定し、地形図を作成します。		
地質調査	基礎構造物などの検討に必要な土地の土質や地質、基礎地盤、地下水などの状態を調査します。		
基本設計			
		用地測量	
事業範囲を決めます。 取得させていただく土地との隣接する土地との境界の確認をお願いします。			造成設計
			用地取得
			造成工事
方法書作成～現況調査～予測評価の順に進められます。	環境アセスメント調査（環境影響評価）		